



りんご生産情報（４月号）

令和４年４月１８日
弘前西地区営農係

１、りんごの生態

４月９日からの連続した高温により、発芽日で平年より２日、展葉日で平年より５日早く推移しております。今後気温が平均気温より＋１℃で経過した場合、ふじで５月４日頃、＋２℃で経過した場合５月２日に開花する見込みです。

ふじの生態	発芽日	展葉日	開花日
中崎（平場）	４／８	４／１３	（５／４）
住吉（中間）	４／８	４／１３	（５／４）
弥生（山手）	４／１０	４／１５	（５／６）
農協平年	４／１０	４／１８	５／９

※（ ）は平年値から予想した日になります。

２、農薬散布

黒星病の飛散開始日とりんごの生態から第一回目薬剤散布は４月２２日頃と見込まれます。なお、４月２０日以降は降雨時に黒星病が飛散するため、降雨前散布を心掛けましょう。また、山手の生育も平場と差が少ないため、第一回目の散布は遅れないようにしましょう。今年は積雪が多く、剪定が遅れている園地もありますので、早めの通路確保を行いましょう。

散布時期 反当散布量	対象 病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍 数	1000ℓ 当り薬量	防除上の注意
１回目 ふじの展葉１週間頃 （４／２２頃） ３００ℓ／１０α	黒星病・腐らん病・ モニリア病 リンゴハダニ ハマキムシ類	マシン油乳剤 ダズバン DF ベフラン液剤	200 倍 3,000 倍 1,000 倍	5 ㍺ 167g×２袋 500ml×２本	カイガラムシの発生が多い場合は、ア プロード F L 1,000 倍を加用しま しょう。
２回目 ふじの開花直前 （５／２頃） ３５０ℓ／１０α	黒星病・腐らん病 うどんこ病 モニリア病 ミダレカモンハマキ	カナメ F L バイオマックス D F	4,000 倍 2,000 倍	250ml×１本 500g×１袋	・黒星病の重点防除時期となります。 散布間隔は必ず１０日以内としまし ょう。 ・散布日に降雨が予想される場合は、 前倒して散布してください。 ※リンゴハダニ対策 落花直後にバロック F L 2,000 倍 または、落花２０日後にピラニカ水和 剤 2,000 倍のいずれかを基準防除 に加用する。
３回目 ふじの落花直後 （５／１２頃） ３５０ℓ／１０α	黒星病・黒点病 腐らん病・うどんこ病 ミダレカモンハマキ リンゴコカモンハマキ リンゴハダニ	ミギワ F L ジマンダイセン水和剤 バイオマックス DF	4,000 倍 600 倍 2,000 倍	125ml×２本 1.67kg×１袋 500g×１袋	
４回目 ふじの落花１０日後 （５／２２頃） ４５０ℓ／１０α	黒星病・黒点病 斑点落葉病 腐らん病・うどんこ病 すす斑・すす点病 クワコカイガラムシ アブラムシ・ハダニ類 ギンモンハモグリガ	ユニックス顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 スプラサイド水和剤 ネオミクス	2,000 倍 600 倍 1,500 倍 250 倍	500g×１袋 1.67kg×１袋 667g×１袋 4kg×１袋	

３、施肥

基肥は雪解け後から４月下旬までに行い、その後の追肥は、生育や葉の色を確認し６月下旬までに行いましょう。
（基肥チッ素 9kg、追肥チッソ 6kg が成木の基準量目安です。）

４、結実対策

○マメコバチ

- 巣箱設置は展葉１週間後頃の薬剤散布から２日以上経過してから設置しましょう。
- 巣箱の前に穴を掘り、土取り場を設置してください。土取り場が乾燥している場合は散水して湿らせましょう。

○人工授粉

	ボンテン	ラブタッチ	人工授粉は下枝や内枝を中心に行 いましょう。
10α 当たり作業時間	８時間程度	２時間程度	
10α 当たり花粉使用量	花粉 12g + 石松子 50g	花粉 20g + 石松子 80g	

- 花粉の採取量は、花が１手箒で約 20～30α 分採取出来ます。（王林の場合、乾燥薬でおおよそ 50cc になります）



←採取に早い
蕾がまだ赤い



←開花に最適な状態な
花
つぼみがピンクの風船
状態で葯が黄色い



←遅い花
葯の色が茶色い

○各開花所受付日（高杉、三世寺、船沢）
４月２８日頃から受付開始です。貯蔵花粉の引き取りは早めをお願いいたします。